建労いわて 月刊号

発行所
岩手県建設労働組合連合会
教宣部
盛岡市本宮一丁目７番２７号
電話　０１９－６３１－３２８０
ＦＡＸ　０１９－６３５－４０１５
発行者　藤井泰男

11月末組織人数 5,225人

先月の機関紙で53人の純増と記載しましたが52人の誤りです。訂正してお詫び申し上げます。

指導と協力を要請
岩手労働局との意見交流

11月27日（月）、毎年開催している岩手労働局との意見交流会を行いました。

全国建設労働組合総連合（全建総連）本部から田久労働対策部長、岩手県連からは、髙橋会長、髙舘副会長、右京社保労働対策部長含む6名、盛岡建設労働組合から2名の参加。岩手労働局からは8名の参加でした。

始めに岩手労働局、岩手県連の参加者紹介が行われた後、髙橋会長から岩手労働局の宮﨑労働基準部監督課長に要請書を手渡しました。

その後、髙橋会長から「私達の組合員で8月と10月に死亡災害が起き、再度教育の徹底をはかる必要があります。また近年アスベストの問題が多くなり、被害者の救済に向けて労働局とも協力していきたいのでよろしくお願いします」とあいさつがありました。

会長あいさつの後、岩手労働局から要請事項に対しての回答が行われ、岩手県としても事業所、労働者、関係各所にきちんと周知・指導に取り組み、費用補助等については厚生労働省に報告していくと回答がありました。

今回の意見交流では「安全対策の強化」、「アスベスト対策」の2点を重点項目として要請をしました。

安全対策の強化では、今年度県内での死亡事故を含む労働災害が大幅に増えた事、年末年始や冬期間に災害発生リスクが増える事に対して指導の強化を要請しました。

アスベスト対策では受診できる医療機関や診察をする医師が少ない事、診断の際に建設作業の従事歴を聞いてアスベストを疑ってほしい事をお願いしました。

労働局からは「安全対策では、年末年始や冬季特有の事故等が今後増える可能性があるので、関係各所にチラシを送り要請します。12月には安全パトロールなど重点行動を行います。アスベスト対策については対象者の職歴等ふまえて、早期認定に向けて対応していきたい」と話されました。

労働局からの回答後、全建総連の田久労働対策部長から「全建総連で調査を行なった所、死亡事故の7割が中小事業主や一人親方で、事故の件数も年々増えて来ています。首都圏では十代で一人親方として労災加入する事が多くみられます。一般的に考えると十代での加入はありえないと思います。労働者性を現場ごとに実態を把握して、きちんと判断してほしいです。また厚生労働省がアスベスト被害者のピークが２０２８年と提言しました。アスベストの疑いがある患者に誤った判断を医師がしてしまい、認定まで時間がかかるケースが増えているので、難しいとは思うが医師にも結果をしっかりと伝える様にして頂きたいです」と意見を述べられました。

最後に髙橋会長から「アスベストの判断が出来る医師をもっと増やしてほしい。中には裁判をして判決前や認定されるまでに亡くなってしまう被害者の方もいるので、基金を立ち上げるなど早期認定、給付をお願いします」と話され、岩手労働局との意見交流は終了しました。

【県連　鈴木（章）記】

要請書を手渡す髙橋県連会長（写真右）

全建総連の田久部長も意見交流に同席

年末年始のお知らせ

12月29日から1月3日まで事務所はお休みさせていただきます。1月4日から業務開始となります。

また12月28日と1月4日は、午後からお休みさせていただきますので、併せてよろしくお願いいたします。

岩手県建設労働組合連合会
中央建設国保岩手県支部

きずな

◆11月19日（日）に行われたアジアプロ野球チャンピオンシップ２０１７で、侍ジャパンが優勝し、初代チャンピオンとなった。この大会は今年から始まり、４年に１回開催され、24歳以下または入団３年以内の選手に参加資格が与えられる。

◆決勝は韓国に７対０で完勝だったが、予選では延長戦にもつれ込み辛くも勝利を収めた。この韓国戦で活躍した選手の中に、岩手にゆかりのある選手が２名いた。

◆決勝戦で2本のタイムリーを放ち、毎試合日本の得点のきっかけをつくり勝利に貢献。大会ＭＶＰを獲得した外崎修汰（とのさきしゅうた）選手。もうひとりは韓国との予選で2ランホームラン、決勝でも2点タイムリーを放ち3試合すべて４番を任された山川穂高（やまかわほたか）選手。

◆両選手は同じ西武ライオンズでプレーしている。また2人は、全日本大学野球選手権大会で準優勝の記録を持つ花巻の「富士大学」出身である。学年でいうと山川選手が1年先輩にあたる。

◆富士大学の近くにある満州ニララーメンで有名な「さかえや」に2人とも練習の後、よく行っていたのではないだろうか。

【教宣部　副部長　鈴木　博三】